大浜第一病院広報誌

笑顔 スマイル

4月号 | 毎月1日発行〈第97号〉
2018年4月1日（日）
発行 大浜第一病院 広報委員会
発行責任者：大城康一

〒900-0005
沖縄県那覇市天久1000番地
TEL.(098)866-5171
FAX.(098)864-1874
http://www.omotokai.or.jp/ohama1/
大浜第一病院HP

新年度挨拶

病院長 大城 康一（おおしろ こういち）

陽春の候、皆様におかれましては益々ご健勝の事と御慶び申し上げます。

4月といえば新年度・新生活のスタートです。新しい場所で生活を始めることは、当事者のみならず受け入れる側も多かれ少なかれ気が引き締まる想いです。

新生活を始めると、新しいことだらけで慣れるのに精一杯になり、気疲れしてしまうと思います。とても慣れない状況や厳しい環境に身を置かれている人は、もしかしたら開始早々に逃げ出したくなる気持ちになるかもしれません。沖縄には「なんくるないさ～」という先人たちが残してくれた島言葉があります。苦境に陥った場合は、ネガティブな気持ちを抑えて、余裕をもってあせらずに行動や立ち振る舞いを行って頂ければと思います。

さて、我が国は少子高齢化、低迷する経済、1000兆円を超える負債をかかえ、果たして再び蘇ることが出来るのか、少しずつでも確実に改善に向かう方向への端緒になればと願わずにはおれません。負の遺産を残し、この結末を次世代に託さざるを得ないのは全国民の本意ではないと思います。

このような状況において、関心事はやはり今後の医療・福祉がどのような展開を見せるのかにあるかと思います。医療と福祉を別々に切り分ける事は非現実的で、医療・福祉をトータルで考える必要性があり2025年問題を見据えて様々な政策が打ち出されています。行政主導で地域の社会資本を総動員し、それらが合理的な役割分担をおこない、結果として地域完結型の効率的でかつ質の高い医療・福祉体制を目指そうという施策が謳われてきました。今まで多くの方策がなされてきましたが、総論賛成、各論反対を繰り返して来た歴史があります。患者さんや高齢者に一番近いところにいる実務者が納得できるようなスキームを創れるかどうかにその正否はかかっているように思えます。

当院は病床数214床と中規模病院ですが、4月からは新入職員61名を迎え総勢731人の職員数となります。

地域社会で質の高い医療を提供し地域住民の皆様方に満足して頂けるよう、そして地域住民の医療・介護・保健・福祉に貢献できるように、今後とも職員一丸となって一層努力し精進していく所存であります。

引き続きご理解・ご支援を賜りますよう宜しくお願いを申し上げます。

大浜第一病院基本理念

1. 医の原点は病者への奉仕にあります。患者様第一主義に徹した医療サービスに努め、患者様に満足して頂ける病院を目指します。
2. 医学・医術の進歩を取り入れた最良の医療を提供できるように常に研修に励み、地域社会に信頼される病院を目指します。
3. 地域の急性期医療ニーズに積極的に対応し、救急医療・夜間透析・健診活動・在宅医療など地域社会のお役に立つ病院を目指します。

新春ロビーコンサート2018 トロンボーンカルテットルーク"琉心"

2月28日（水）13:00～13:30にふれあいホールにおいて、トロンボーンコンサートが開催されました。

トロンボーンカルテットルーク『琉心』は沖縄県内の演奏家によって結成された団体で、生演奏の迫力や美しさを広く知っていただきたいという思いから、ホール、ライブハウス、レストラン、医療施設などの演奏を中心に、本来のクラシカルな響きを持ち味としながら、ジャンルにとらわれない活動を積極的に行なっています。

今回は、結成60周年のアロージャズオーケストラ珠玉のトランペッター田中洋一氏との夢の競演で、ホールに響く音色が心地よく、とても贅沢で貴重な時間を過ごさせて頂きました。田中洋一様、トロンボーンカルテットルーク『琉心』の皆様、素敵な演奏と時間をありがとうございました。

平成29年度消防訓練

平成30年2月28日午後から今年度2回目の消防訓練を実施しました。

3階透析センターから火災発生の想定で、初期消火、消防隊への通報、避難区域までの職員・利用者の避難誘導を訓練。

自力歩行が困難な患者様を想定したシーツを用いた搬送法や場面で臨機応変で柔軟な対応ができるよう各役割職員の行動・手順の一つ一つを確認し、また、屋外でも参加者全員が消火器や消火栓を使用した放水訓練を行いました。

いざという時に備えて人命をどのように守るのか、実践的な訓練を今後も重ねてまいります。

修了証授与

初期臨床研修修了者

臨床研修修了式 ～2年間お疲れ様でした～

平成30年3月15日（木）、第12回臨床研修修了式を開催いたしました。

初期研修医桃原慎先生、大田一木先生、冨安泰生先生、明永征大先生の4名が修了し、大城病院長からの祝辞の後、一人ひとりに修了証が授与されました。

今年度、初期研修を修了される皆様の、今後のますますの活躍を祈念しております。

大浜第一から全国へ！情報発信 UPDATE

大浜第一病院では、当院で得た知見を積極的に全国学会や学術誌で報告し、医学・医療の発展、また一般の方々への啓発活動に寄与しています。

（発表者のみ記載）

1月

第7回日本外傷歯学会西日本地方会（南風原町）
新谷　晃代（歯科口腔外科・医師）

第8回日本医療マネジメント学会沖縄県支部学術集会（那覇市）
後藤　久美（看護管理室・看護師）

第19回沖縄県理学療法学術大会（西原町）
新崎　義人（リハビリテーション科・理学療法士）
瀬底　正仁（リハビリテーション科・理学療法士）

看護のチカラ　第23巻485号1月15日号 誌上発表
津嘉山　みどり（看護管理室・看護師）

2月

回復期リハビリテーション病棟協会　第31回研究大会in岩手（盛岡市）
新崎　義人（リハビリテーション科・理学療法士）

第45回日本集中治療医学会学術集会（千葉市）
槇野　崇史（内科・医師）
大田　一木（内科・医師）

第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会（横浜市）
伊志嶺　真達（消化器内科・医師）
森田　梢（栄養給食科・管理栄養士）
加島　ひとみ（栄養給食科・管理栄養士）

第33回日本環境感染学会総会・学術集会（東京都）
伊藤　まゆみ（感染管理室・看護師）
宜保　潤（薬剤科・薬剤師）

第35回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会（札幌市）
仕垣　幸太郎（大腸肛門外科・医師）
平良　さやか（手術室・看護師）
屋良　伸吾（7階病棟・看護師）

看護のチカラ　第23巻487号2月15日号 誌上発表
津嘉山　みどり（看護管理室・看護師）

医療法人おもと会
大浜第一病院
〒900-0005
沖縄県那覇市天久1000番地
TEL (098)866-5171
FAX (098)864-1874
大浜第一病院HP
WEB http://www.omotokai.or.jp/ohama1/

編集後記

Text: 総務課 長嶺

いつも広報誌「スマイル」をご愛読いただきありがとうございます。新年度を迎え、私たち広報委員会も新しいスタイルでスタート致します。3つの柱（広報誌・イベント・Web）でチームを編成し、これまで以上に皆様のお役に立てるような情報を、楽しく、分かり易くお伝えしていきます。

ゆんたく日和

精神科医　平山　雄也

自分が自分の味方になる

「自分が自分の味方になる」今回はこんなタイトルをつけてみましたが、このタイトルから皆さんの中にはどんな考えや思いが湧いてくるでしょうか？「そんなの当たり前」「よく分からない」「自分を甘やかすことにならないかな？」などなど、いろんな反応があると思います。

考えてみると、人生で自分の一番近くにいて、一番長く時間を共にする人って「自分」ですよね。ですから、「他の人」との関係も大事ですが、「自分自身」との関係もすごく大事なんです。もし自分が自分の味方でなければ、24時間すごく近くに敵がいることになります。そしたら安心して暮らせませんよね。逆に自分との関係が良いほど安心感は増していきます。

では、「自分が自分の味方になる」ってどういうことでしょう？まず大事なのは、自分に湧き上がってくる考えや感情、体の反応などをOKしてあげることです。人間は「怒り」「悲しみ」「不安」などの感情、「あの人嫌だなー」などのネガティブに感じる考え、不快だったり思い通りじゃなかったりする体の反応を、「そんなのダメだ」「いらない」「どっかにいけ」と避けようとしたり、押し込めようとしたり、排除しようとしたりしがちです。もちろんこれも自然なことですし、悪いことでもありません。ですが、「自然に湧き上がってくるもの」と「それを排除しようとするもの」の戦いが大きくなると、モヤモヤしてきたり、苦しくなったりしてきます。

自分の中に湧き上がるものって、「いのち」が産み出すものです。どんなものであれ、できるだけ大切に扱ってあげて、見守っていると、自然におさまるところにおさまっていきます。

と書きましたが、「人間だもの」やっぱり嫌だなという考えや思い、反応も出てきます。それも「いのち」が産み出すもの。そんな時は、嫌だなーだったり、避けたかったりしこめたかったり、排除したかったりする気持ちも、「そうだよねー」と受け入れてあげるといいですね。

よく「自分を受け入れましょう」「自分を許しましょう」という言葉を耳にしますが、大事なのは「自分を受け入れられない自分も受け入れる」「自分を許せない自分も許す」ことです。それもできなければ、そんな自分を受け入れ、許す…。僕はこれこそが「自分が自分の味方になる」極意だと思っています。

これからどんどん暖かくなってきますね。暖かさを満喫して、また「笑顔」でお会いしましょう。

『PICC』とは（末梢挿入式中心静脈カテーテル）？？

CVポートセンター長
伊志嶺　真達

医療現場において様々な病気に対して点滴治療を行うことは多々ありますが、その手段として上腕の血管から心臓近くの太い血管までカテーテルという管（くだ）を入れ、特に手の血管がもろい方々へ対しては抗がん剤や栄養たっぷりの点滴、その他に大事な薬をそのカテーテルを介して投与できる画期的な医療手技があります。特に腕の血管が細くて見えない、看護師さんが何度も点滴のために手（末梢）の血管を刺してもすぐ血管外に漏れて難しい・・でも食事も取れない、抗がん剤治療を受けたくても血管が弱くて、という方々へはPICC（もしくはCVポート）がお勧めです。

当院ではこれまでPICCがさほど普及しておりませんでしたが、今後患者さんの血管に対する負担軽減のために積極的に導入していきます。昨年2017年10月に当院にてCV（中心静脈、PICC含む）ポートセンターを県内初開設し実績豊富な岸宗佑先生が当センター非常勤医師で赴任し、その業務活動を継続しております。今後は当院医師&若手医師がその技術を伝承していく方針です。

院内PICC普及に向けて先日、当院メディカルスタッフ（医師・看護師・臨床検査技師・放射線科技師等）向け院内勉強会を開催致しました。院内外への知識技術の教育啓蒙を当院から発信し、今後も継続していく予定です。

いよいよ、沖縄肛門疾患研究会 発足!!

大腸肛門外科　仕垣幸太郎

去る2月8日に当院において第1回　沖縄肛門疾患研究会を開催いたしました。これまで沖縄県には大腸に関する研究会は存在していましたが、肛門疾患（痔疾患）についての研究会はありませんでした。そのような背景もあり、沖縄県の肛門診療のレベルアップと後進の育成を目的に私がこのような会を立ち上げる運びになりました。

当院ふれあいセンターに、県内の肛門科の先生方が一堂に会し、5題の発表に対して活発な議論を行いました。また特別講演として、排便障害では日本のリーダーである東京山手メディカルセンターの山名哲郎先生をお招きして「排便障害と骨盤臓器脱」についてお話しいただきました。2時間の予定時間を大幅に超える3時間の研究会となりました。

今後も沖縄県における肛門疾患や排便障害のオピニオンリーダーとして、日々の診療とともにこのような学術的な活動にも力を入れていきたいと思います。

セルフケア・カレッジ

『体内に石ができる胆石のおはなし』をして

消化器外科部長　髙江洲　享

2月27日のセルフケアカレッジで、『胆石のおはなし』をさせていただきました。

健康教室では、がんの話や状態が悪くなったときの話など、どうしても厳しい話をしなければいけないことも多々あります。実際にその後病気で困っている患者さんや患者さんのご家族が講演を聞かれることもありますので、できるだけ湿っぽい話にならないようにしています。

また、少しでもプラスになる話ができ、スマイル（笑顔）になれたらいいなという思いで、今回は明るい話題として平昌オリンピックのカーリング日本女子のハッピースマイル、笑顔会議の話をさせてもらいました。

笑いには、楽しくて見ている人まで幸せにしてくれる「心から笑う笑い」と、自然ではない「意識して作られた笑い」の2種類があり、どちらがいいとか悪いとかいう話ではなく、逆に医療の世界では前者は患者さんの免疫をあげる意味で大事であるし、後者は医療人（＝サービス業と私は話しましたが）として病院という閉鎖空間で働く人、病院を受診する患者さんや家族みんなが幸せになるために必要な潤滑油であることを話しました。

健康教室では、医療以外の雑談もしますが、よろしかったら次の機会にでもいろいろな方が聞きに来てもらえると嬉しいです。